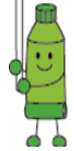


中部人懇通信 No.1

人権教育
主任対象

「中部人懇」は「中部地区人権教育懇談会」を略した名称です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進をはかることを目的に1971年（昭和46年）に発足しました。本会の取組は同和問題をはじめとするあらゆる人権問題について語り合うことで、中部全体の人権意識の高まりを生み出してきました。教職員、市町行政職員、PTA関係者を対象として年5回の研修を行っています。

「中部人懇」って
こんな会です！



平成30年7月10日（火）に、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の人権教育主任を対象とした第1回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

講演「同和教育が大切にしてきたものとおこれからの人権教育」

京都教育大学名誉教授 鳥取環境大学名誉教授 外川 正明 氏

■講演の内容

外川先生の同和教育との出会いから話が始まり、戦後の同和教育の歴史と共に実例を紹介しながら、同和教育が大切にしてきたものについて講演をしていただきました。

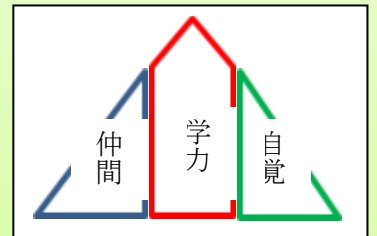
○知識を得るだけの人権学習ではなく、子どもの個別の課題をしっかりと理解して進めていかなければいけない。

○学力は、自尊感情や生育歴と大きく影響している。一人一人の子どもの背景を理解していくことが大事である。「40人の子どもには40の生活があり、それをランドセルに詰め込んで学校に来ている。」

○学力とは、世の中を主体的に生きる武器である。主体的に物事を判断する力を付けることが必要である。大学進学だけが目的ではなく、進路を選ぶ力をつけていかなければならない。

○学力の保障とは、「学力」そのものをつける取組だけでなく、それを支える「仲間」と何のために学ぶのかという「自覚」があってこそ成り立つ。

○差別の現実深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立してほしい。



【参加者の感想より】

○学校で出会った子ども一人一人の様々な生活、背景、育ちを理解し、子ども達の素晴らしさに心を寄せ、共に育ち合う集団を作っていきたいと思った。

○学力は“主体的に働きかけることのできる武器”という新鮮な表現がキーワードとして残った。学力をつけることに熱心に取り組みながら、「何のために？」の問いに明確な説明が出来なかった自分にとって、講演はとてもしっかりする納得できるものだった。

○「しっかり生きていくため」にどんな子どもを育てていくのか、私達教師の役目は何なのか、もう一度考えなければと思った。差別の実態を改めて聞き、次の世代に何を伝えていくのか考えていこうと思った。

○改めて一人一人の子どもの生活を見つめることの大切さに気付かされた。人権教育になって様々な人権問題から学ぶ学習方法が主流になり、差別の現実から深く学ぶ機会は減った。今だからこそもう一度同和教育の築いてきた良い面を見直して、実践として残していかななくてはと思った。

【まとめ】

各学校において、「同和教育で培われてきた原則を人権教育の根幹に位置づける」(鳥取県人権教育基本方針)ということを確認し、本研修の学びを今後の実践に生かしていただきたいとします。

人権教育主任の先生方が中心となり、自校の課題を把握した上で、全職員で人権教育の年間計画の見直しをするなど、人権教育を効果的に進めていくための工夫をしていきたいと思います。